

第4编

同窓会



椿

これまでの五十年、そしてこれから

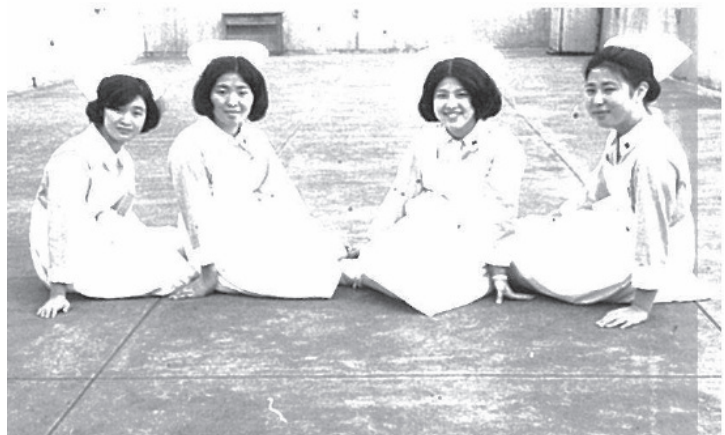


東京医科大学看護専門学校 同窓会会長
有本キヨ子(第3回生)

母校の50周年、おめでとうございます。会長として思いますのは、個性的な学生を、3年間という短い期間で、専門家に育成するという大仕事にご尽力くださいましたこと、また、よりよい教育の実践を、確保してこられました教職員の皆様に、敬意を表しますとともに、心より感謝いたします。東京医科大学看護専門学校は2016年3月閉校になりますが、東京医科大学医学部看護学科が、2013年4月に開校しました。2017年3月には、一回生が卒業します。私たちの母校の形はなくなりますが、50年間に培われました風土は、新たな形でつながっていくものと思われまふ。看護学科の副学科長には卒業生が就任しました。追い追い専門学校卒業生の教職員が増えると伺っており、頼もしい限りです。

母校の実態はなくなりますが、東京医科大学看護専門学校 同窓会は継続いたします。活動の拠点となる場所（ハード）はなくなりますが、ソフト面の事務局は2年前から外部に委託していますので、同窓会の運営、および活動に支障をきたすことはないと思われまふ。唯今一度、あらためて、同窓会の意義を確認し、新たな局面を受け入れて、同窓会の継続を考えるとところから始められるといいのではないのでしょうか。各同窓生の意思が尊重される、どのような形にでもしていくことが可能です。この50周年を機に新たな同窓会のイメージを、ふくらませ、同窓のよしみを互いのために活かしていけるよう、みなが参加できる拠点を創っていきまふせんか。

同窓生一人ひとりの、それぞれの生き方の中に、「同窓」への思いに灯を点していただけたら嬉しいでふ。誇り高き母校、同窓会役員の一員として、同窓会にチャレンジしていきたいと思ひまふ。



左から高橋(田島)和子、新家(石沢)友栄子、有本(中川)キヨ子、竹内(佐藤)千恵子
本科寮屋上にて(昭和43年)

同窓会の設立と役員並びに活動史

※役員欄の空白部分是不明

西暦	邦暦	出来事等	同窓会の活動					会長	副会長	書記	会計	会計監査
			総会	名簿発行	同窓会 便り	講演会	バザー					
1964	昭和39	高等看護学校開設										
1965	昭和40											
1966	昭和41											
1967	昭和42	看1回生卒業										
1968	昭和43											
1969	昭和44							同窓会準備委員会発足 看1～3回生各回生より2名ずつ選出→氏名は不明				
1970	昭和45	別科開設										
1971	昭和46											
1972	昭和47	別科1回生卒業										
1973	昭和48		第1回	①				看1駒宮智恵子	看2水野芳子			
1974	昭和49	別科最終募集 本科を看護科へ改称 進学科開設	第2回					看3中村知加枝	看5岩川ひで子			
								看5加藤憲子	看8磯田紀子	看10栗谷川恵子	看3黒坂知子	
1975	昭和50											
1976	昭和51	別科廃校										
1977	昭和52	進学科1回生卒業										
1978	昭和53	看護専門学校へ改称	第3回					看7渡部和子	看7大工原直子	看10戴清美	看6阿部満子 別1佐藤友枝	
1979	昭和54	病院から大学基礎新館へ 全面移転		②								
1980	昭和55	上石神井に学生寮東医 山ハイツ完成 病院の寮を 移転										
1981	昭和56											
1982	昭和57											
1983	昭和58	看護科20周年記念式典 進学科最終募集										
1984	昭和59		第4回	③			1回	看3高橋和子	看3有本キヨ子 別2小野寺三喜子	進1宮崎フジ子 看12石塚睦子	看13吉田裕子 看13山内仁美	別1佐藤友枝 看2金沢宣子
1985	昭和60	東京医大新病院完成	第5回		創刊号		2回	看3高橋和子	看3有本キヨ子 看6阿部満子	看12石塚睦子 看13関口文江	看11木村富士子 看13森田貴美→途 中より看13成田みゆ き	看3藤原喜代美 進5野村ひろ子(途 中まで)
1986	昭和61	進学科廃校	第6回		第2号	どこかでニュース テーションのキャス ターの人やピー子 さんの講演があつ た	3回	看3高橋和子	看3有本キヨ子 看6阿部満子	看12石塚睦子 看13関口文江	看11木村富士子 看13森田貴美→途 中より看13成田みゆ き	看3藤原喜代美 進5野村ひろ子(途 中まで)
1987	昭和62				第3号		4回	看3高橋和子	看3有本キヨ子 看6阿部満子	看12石塚睦子 看13関口文江	看11木村富士子 看13森田貴美→途 中より看13成田みゆ き	看3藤原喜代美 進5野村ひろ子(途 中まで)
1988	昭和63		第7回	④	第4号		5回	看6阿部満子	看3久松朋子 看6戸館れい子	看8宮崎歌代子 看13成田みゆき	看11木村富士子 進7丹野栄津子	看3藤原喜代美 看17柳谷ふく子

西暦	邦暦	出来事等	同窓会の活動					会長	副会長	書記	会計	会計監査
			総会	名簿発行	同窓会 便り	講演会	バザー					
1989	平成元		第 8 回 の 時 期 不 明		第5号		6回	看6阿部満子				
1990	平成2				第6号	白井幸子先生『ターミナルケア』	7回	看6阿部満子	看5藤原幸子 看6戸館れい子	看8宮崎歌代子 看13宮川江都子	看11木村富士子 看13金田博美 看13柴田恭子	看3久松朋子 進1中野八重美
1991	平成3				第7号	永井明先生『ぼくが医者をやめた理由』	バ ザ ー の 中 止 時 期 は 不 明					
1992	平成4				第8号							
1993	平成5	看護科30周年記念式典			第9号	日野原重明先生『これからの看護 看護婦に求められるもの』						
1994	平成6		第9回		第10号			看7池田すみ子		看13坂井都美子 看15五十嵐悦子	進6小林鈴子	看15田山友子
1995	平成7	卒業生に医療専門課程専門士の称号が与えられるようになる			第11号							
1996	平成8											
1997	平成9				第12号	田中さだ子先生『あなたが輝くコミュニケーション術』		看7池田すみ子	看13坂井都美子 看16井澤和代	看15森谷悦子 看20猿田淑恵 看22河原畑尚美	看18高城由紀 看19山下恵子	看17守屋みゆき 看21山下美代子 看24関口淳子
1998	平成10			⑤	第13号			別1佐藤友枝	看16井澤和代 看18高城由紀	看20猿田淑恵 看22河原畑尚美	看19山下恵子 看23山中文子	進9大矢幸子 看21山下美代子 看25小林由美
1999	平成11				第14号			別1佐藤友枝	看16井澤和代 看19山下恵子	看15高野道子 看18神保洋子 進9大矢幸子	看20猿田淑恵 看21山下美代子	看22河原畑尚美 看23山中文子 看25小林由美
2000	平成12				第15号			別1佐藤友枝	看19山下恵子 進9大矢幸子	看15高野道子 看22河原畑尚美 看22牧野ゆみ	看21山下美代子 看23山中文子	看18神保洋子 看26佐藤暁子 看26高橋直美
2001	平成13				第16号			別1佐藤友枝	看7峰村淳子 進9大矢幸子	看15高野道子 看22牧野ゆみ	看18千葉泉 看23折元美雪	看10須佐真由美 看18神保洋子
2002	平成14	同窓会ホームページ開設			第17号			看10須佐真由美	看7峰村淳子 看15中川八千代	看22牧野ゆみ 看22八木橋史子 看27小浦千勢	看18神保洋子 看23折元美雪	看18千葉泉 看26高橋直美 進10高橋小由紀
2003	平成15			⑥	第18号			看10須佐真由美	看7峰村淳子 看15中川八千代	看22牧野ゆみ 看22八木橋史子 看27小浦千勢	看23折元美雪 看25吉田ともみ	看18千葉泉 看26高橋直美 進10高橋小由紀
2004	平成16				第19号			看10須佐真由美	看7峰村淳子 看15中川八千代	看22八木橋史子 看22東美江 看27小浦千勢	看23折元美雪 看25吉田ともみ	看18千葉泉 進10高橋小由紀 看31楠美枝
2005	平成17				第20号			看10須佐真由美	看7峰村淳子 看15中川八千代	看22東美江 看22八木橋史子 看27小浦千勢	看23折元美雪 看25吉田ともみ	看10高橋小由紀 看18千葉泉 看31楠美枝
2006	平成18				第21号			看9湯澤礼子	看15中川八千代 看17守屋みゆき	看22東美江 看22吉川由三子 看27小浦千勢	看23折元美雪 看25宮崎留美子	看10高橋小由紀 看18千葉泉 看31吉岡美枝
2007	平成19	学生寮東医覇山ハイソ閉寮			第22号			看9湯澤礼子	看15中川八千代 看17守屋みゆき	看22吉川由三子 看27小浦千勢 看30大島久美	看23折元美雪 看25宮崎留美子	看10高橋小由紀 看18千葉泉 看31吉岡美枝
2008	平成20				第23号			看9湯澤礼子	看15中川八千代 看17守屋みゆき	看30大島久美 看27小浦千勢 看22吉川由三子	看25宮崎留美子 看24石川順子	進10川間春美 看18千葉泉 看35布施由香梨
2009	平成21				第24号			看9湯澤礼子	看15内田幸子 看17守屋みゆき	看30大島久美 看27小浦千勢 看22吉川由三子	看24石川順子 看25那須淳子	進10川間春美 看18千葉泉 看35布施由香梨
2010	平成22				第25号			看9湯澤礼子	看15内田幸子 看17守屋みゆき	看30大島久美 看27小浦千勢 看22澤田育子	看24石川順子 看25那須淳子	進10川間春美 看18千葉泉 看35布施由香梨
2011	平成23				第26号			看3有本キヨ子	看15内田幸子 看17守屋みゆき	看22澤田育子 看27小浦千勢 看30大島久美	看23山内麻江 看24石川順子	進10曾田優子 看18千葉泉 看35布施由香梨
2012	平成24				第27号			看3有本キヨ子	看15内田幸子 看17守屋みゆき	看22澤田育子 看27大友紀子 看30大島久美	看23山内麻江 看24石川順子	進10曾田優子 看18千葉泉 看35布施由香梨
2013	平成25	専門学校50周年・最終募集 医学部看護学科1回生入学			第28号			看3有本キヨ子	看15内田幸子 看17守屋みゆき	看27大友紀子 看30大島久美 看31難波奈保子	看22澤田育子 看32工藤ちひろ	看18千葉泉 進10曾田優子

平成25年度役員



後列左から 大友 難波 工藤 大島 澤田

前列左から 会田 守屋 内田 有本

会長 有本キヨ子（看3）
 副会長 守屋みゆき（看17B） 内田幸子（看15A）
 書記 大友紀子（看27A） 大島久美（看30A） 難波奈保子（看31A）
 会計 澤田育子（看22A） 工藤ちひろ（看32A）
 会計監査 千葉泉（看18B） 会田優子（進10）

役員会

4月	月1回 定例役員会	今年度計画確認、幹事会・総会準備 入学式出席・花束贈呈
5月		幹事会・総会準備、同窓生住所確認、幹事連絡 網作成
6月		総会（役員交代、決算・予算報告他） 戴帽式出席・花束贈呈
10月		同窓会便り発行進捗状況確認・適宜校正
1月		卒業記念品準備 同窓会便り発行
2月		卒業記念品準備状況確認、謝恩会出席者確 認、次年度役員会・幹事会・総会等の年間計画
3月		卒業生への同窓会説明と記念品贈呈 卒業式出席と花束贈呈 謝恩会出席

同窓会幹事会



病院教育棟にて

一元同窓会役員からのメッセージ

50 年を振り返って思う

東京医科大学病院 元看護師長

元同窓会会長

高橋(田島) 和子(第3回生)

東京医科大学看護専門学校 50 周年記念おめでとうございます。「我はここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん・・・」。初めてこのナイチンゲール誓詞を耳にしてから 47 年を数え、半世紀も経てしまった事に改めて感慨を覚える。高校卒業後上京し、同窓会館 4F ホールでの入学式から、初めての寮生活が始まった時のドキメキや不安が一杯の 18 歳の春からの出来事である。

寮では、高尾寮母さんから、都会生活、社会生活の常識、女性としての品格、等々、毎日の生活の御指導を頂き、今もって身につけている事に驚く。昭和 42 年、第一回生が卒業し、東京医大病院での勤務の中で同窓生が増えていくのに院内でのお互いの結びつきの希薄さを心配し、連携出来る場の必要を感じた有志の願いから昭和 44 年、同窓会の発足に至った。同窓会会長は各回生から選出され、総会が開催されてきた。

私は、昭和 59 年から 62 年までの任期であったが、大所帯になるにつれ会の運営は大変になり、運営費や会の広報等の為、昭和 59 年の東医祭で初めてバザーを試みた。内外の皆様の協力を頂き、病院に品物を集め、守衛さん(当時の呼称)が玄関の某所に保管して下さった。役員はタクシーで大学に運び、品物の選別、値付け、陳列に時を過ごしたのも懐かしい。ちなみにウィスキーやタオル類の評判が良く、楽しみにされていた方達もあり、盛況であった。昭和 60 年には、同窓会便り創刊号が発刊され、以来連綿と続けられて、今回が 50 周年記念誌であるとの事、又、看護学校は東京医科大学医学部看護学科となり、第一期生が誕生した。平成 28 年に看護科は廃校となるそうで、半世紀の変遷をしみじみと感じる。名称は変わっても後輩は明日へ続く。毎年新しい一年生が同窓生となって、ずっと繋いでくれる事と思う。

看護の仕事は、その人を大きく成長させてくれる。様々な「根」をしっかり張り、看護という職業を誇りにし続けてほしい。毎日の仕事の中から枝が伸び、葉が茂る。私達先輩は降る雨の雫の一粒となって、根が張り枝が伸びていくのを応援したいと願う。又、若い会員の方には、同窓会に関心を持ってほしいし、同時に皆様を引きつけられる魅力のある同窓会であるようお願いしている。昨年、一回生、二回生、三回生で合同の食事会が催された。40 年来の再会であったが、歴代の恩師の方々と各地で活躍中の先輩達とは、昨日まで一緒だったかのように思いを分かち合えた。東北の被災地から参加の方も、とてもお元気な様子とお見受けし、ほっとして嬉しかった。

何があっても心の繋がりを持つ同窓の力は心強い。手をつなぎ、心を繋ぎ、東京医科大学看護専門学校同窓会が、今後も 50 年、100 年と歴史を刻んでいけるよう益々の御発展を祈念いたします。

資料を提供下さった石塚睦子様、ありがとうございました。



コサージュ有りは戴帽式後の第4回生

他は2・3回生(後列右端:高橋元看護師長)とご父兄

同窓会館4階ホールにて

記念誌に寄せて「看護の楽しみ・・・」

郡山健康科学専門学校 介護福祉学科 学科長

元同窓会会長

中村智加枝(第3回生)

同窓生のみなさまは生き生きとお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今日は土用の丑の日、おいしそうな匂いが道いっぱいしております。同窓会にはすっかりご無沙汰しております。ご容赦ください。

記念誌に原稿をとご連絡をいただいて、もうそんなに時が流れたのかと感慨深いものがあります。あの小さな学び舎で寝食を共にしながら学んだことが今の私の核になっていることを思うと、3年間の出会いの豊かさに感謝いたします。よき師・個性豊かな先輩・元気にはち切れていた3回生、そしてあどけなかった後輩のみなさまとともに過ごした3年間は貴重な時でした。門限8時、10時消灯の生活も懐かしく思います。



さて、元同窓会会長ということですが同窓会を立ち上げた1回生の、駒宮さんから総会の前に突然「次は中村さんよ」と言われてお引き受けした記憶があります。お引き受けしたものの間もなく兵庫の方に移動し、あまり役にたたない会長であったと思います。あのころの同窓会の役員はみんな大学病院に勤務していましたので、集まるとまずは職場の諸々を語らなくては、同窓会の議題に入れなかった覚えがあります。そして、時を忘れて看護を熱く語って散会していました。まだ、同窓生みんなが若かった頃です。

あの頃から、随分時が経ちました。その間に医療も大きく変化いたしました。看護の専門性の追求も進んでいます。その中で同窓生一人ひとりがそれぞれの道で活躍していることを心強く思います。

元来病気には縁のなかった私ですが、先日短い入院を経験しました。入院をして、患者にとって看護師の存在の大きさ・重さに気づき、久しぶりに看護を考えました。同じ看護行為であっても看護師一人ひとりによって全く違うということです。看護を受けることができたときの安堵感、心地よさ、快適さは何ものにも変えることができません。しかし、それを業務としてされた時の緊張感、不安感は計り知れないものがあります。それを緩和するのは、同室の患者でした。つまり、看護は看護師一人ひとりが、自分自身を通してしか行うことができないということです。

看護には、看護の専門性を追求しながら、看護師と患者がともに時と場を共有し、両者でその時空を創ることができる楽しみがあると思います。看護の魅力はこの楽しみではないでしょうか。この楽しみが看護の醍醐味であり、看護師を続けている原動力になっているのではないのでしょうか。

これからいっそう看護師の担う役割が広く深くなる時、同窓生のみなさまのご健勝とますますのご活躍を、そして同窓会の発展を祈ります。まずは、看護を楽しみましょう。



中村智加枝・福島弥栄(3回生)

1年秋のレクリエーション駒沢公園

同窓会便り創刊当時の編集委員

同窓会便り
編集委員紹介!

同窓会便り、次回発行は1年後になります。御意見がありましたら、〒160 新宿区新宿 6-1-1 東医看護同窓会便り宛へお便り下さい。尚、上のメンバーは今回で解散になります。(次のメンバーはこれから検討なり)

編集後記

東京医大の新病院は、多くの乙女たちが青春と看護への志を築きあげていった地(寮、西館)に誕生した。進学科は、今年七月二十六日、十回生をもって閉校となる。再び訪ねてみると過去と現在が交差し時の流れを感じるだろう。

青春、学びの宿を共にした仲間たち、今はどうしているだろうか。古巣が同じでも、飛び立つ先は四方八方へ。そんな人たちの心を血の通う丈夫な血管でつなげていけたら。この「便り」がその一部を担ってくれたらと思う。

狭くうす暗い二寮の一室で膝をつき合せての話し合いと作業。寒い頃に手かけた「便り」が夏を経て、それぞれの手に届いていくことに胸をおどらせて。



後列左から 中田(進 4) 長谷川(看 19) 酒井(看 11) 柳谷(看 17)

前列左から 石塚(看 12) 久松(看 3) 辻(看 4)

旧南病棟にあった看護教員控室(それ以前は南3階の配膳室)にて

病院の玄関に花を飾り続けて

元同窓会副会長 元同窓会便り編集委員
久松(山本) 朋子(第3回生)

看護専門学校創立 50 周年おめでとうございます。

私は卒業と同時に結婚し、看護学校及び病院にはお役に立つ事もなく主婦としての道を歩いて参りましたが。高校一年の時より茶道、花道の稽古事をしておりました。

ひよんな事から東医大病院で職員の方々にお花を教える事になり丸 20 年、週一度病院に通い、生け花やフラワーアレンジメントを教えたり、病院の玄関や入退院の入口に季節の花を飾っております。院内を生けた花を持って移動しておりますと患者様や職員の方々に綺麗ですね!!とか何と言う花ですか?等と声を掛けられ、短い会話が交わされます。

他にもお花の教室を持っておりますので弟子達の発表の場を他でしておりましたが、平成 18 年より院内ロビーで休診日を利用して発表の場としての花展をさせて頂いております。看護部の多大な御協力により昨年で 7 回目の院内花展を行ないました。第 2 回目より看護部主催の花展になり、当日は院内放送をして頂くお陰で 2 日間で 5 回も足を運んで下さる患者様や車椅子での患者様が退院したら「私も家に花を飾ろう」と仰ったり、体験コーナーでは旦那様が奥様に花籠アレンジを作ってプレゼントしたり、様々に患者様の輝く顔を見たり声を聞いたりしております。大学病院のロビーで花展をしたり、患者様をお迎えする玄関に季節の花を飾っている病院はそう多くないと思います。この小さな継続は患者様や職員の方々の心に何か「ほっと」する安らぎを与えていると信じております。何より私自身が 20 年間、病院に通い続け季節の花に触れ、人々と触れ合う事により沢山の喜びと楽しさを頂いております。同窓生の皆様方にはそれぞれ御自分の置かれている場所で輝きながら年齢を重ねている事と存じます。

最後に同窓会役員並びに記念誌編集委員の皆様方の御努力に感謝と敬意を表します。



東京医科大学病院 1 階での花展の様子

～看護学校入学の頃の思い出～

東京医科大学病院 外来 A ブロック師長

元同窓会会長

池田 すみ子(第7回生)

看護専門学校創立 50 周年おめでとうございます。

創立 50 周年の節目に記念事業を企画していただいている諸先輩と先生方には、大変なご苦勞をおかけしていると思いますが、意義ある企画に少しでも協力させて頂きたいと思っています。40 数年前のことを思い出し、昔のことを少し書かせていただきます。

私が入学した昭和 45 年頃はまだ「専門学校」ではなく、東京医科大学附属高等看護学校でした。学生数も一クラス 40 数名で学校と学生寮が同じ建物の中にあり、寮の部屋からスリッパをパタパタさせながら教室に入っていました。通学生は少なくほとんどが入寮していて、一年生の時は二年生の先輩と同じ部屋で 3 人が自炊をし、寮母さんから掃除のやり方や入浴の仕方まで教わりました。現在の本館の立っているところに看護学校や、学生寮・看護婦療、3 階建ての西病棟があり、現在の医局センターは南病棟と呼んでいました。8 階建ての南病棟がその頃一番新しい病棟で裏庭に芝生があり、とても日当たりが良いので患者さんなども日光浴をしていました。病院の周囲は、現在都庁が建っているところが浄水場跡地で、何もない草むらで建設中の京王プラザホテルをよく見渡すことができました。現在では高層ビルの谷間になってしまいましたが、私が入学した頃の高い建物は、東京医大病院と京王プラザホテルだけでしたので、少し誇らしい気持ちでいたものです。

それから 40 数年が経ち、病院の周囲も様変わりし、現在の新病院もすでに 20 年が過ぎて次のビルが建設されようとしています。看護専門学校が大久保キャンパスに移り、今年は第 50 回生を迎えています。また、東京医科大学医学部看護学科が設立され 4 月から第一期生が入学し、半世紀の間に看護学校も大きく成長したと思います。これまで支えてくださった先生方の御苦勞に感謝の気持ちでいっぱいです。私も卒業生の一人として、看護学校同窓会役員の仕事を数年間やらせていただきましたが、同窓会便りや名簿の発行などとても大変な仕事でした。現在同窓会の役員をやっている皆さんに感謝を申し上げます。これから同窓会がどんな形になっていくにしても、同級生や先輩・恩師の方々との交流が続くことを願っています。



左から 2 番目が池田看護師長 東医祭にて(昭和 46 年)